

キールだより

難波 取

日本ではもっぱら軍港としてのみ知られたキール(Kiel)は第2次大戦で大小92回の空襲をうけ、市街の85%が壊滅しました。しかしそのお陰で(というも叱られるかもしれませんが)今は戦前よりはるかにきれいに、しかも大きな規模で再建され、人口27万、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン州の主都、文化、経済の中心として、そしてまた再び軍港として発展しつつあります。北緯54°、北海とバルト海(ここではOstsee、すなわち東海といえます)に挟まれて年中中涼多雨です。しかし夏には、奥行き12キロの幅狭い入江を持つこの街はとて美しく、遊客で人口は2倍にもふくれあがるとかいられます。毎年6月には「キール週間」が催され(今年が81年目)、呼び物の大小各種のヨットレースの外に、コンサート、演劇、花火等で賑います。

キール大学は1665年創立した殿様の名をとりクリスチャン・アルブレヒト大学と呼ばれます。(写真正門にみえます)。戦災により、いまのところ医学部を主とする「旧大学」とその他の学部を集る「新大学」とに分けています。「新大学」関係は昔の軍関係の建物をゆずり受けたものだそうで大分お粗末ですが、しかし最近(写真でみられる以上の)すばらしく立派な建物が次々と急ピッチで建てられています。ドイツは一年二期制で10月1日から3月31日までが冬学期、4月始めから9月末まで夏学期です。但し講義はそれぞれ8月初から2月末までと5月初から7月末までです。学生は学期毎に登録してどこの大学でも自由に勉強出来ます。夏はキール、冬は南のどこかで勉強するのが理想的の学生生活なのだそうですが、成程学生数もここは冬6000、夏6500程となっています。この中ノールウェー、中近東、及びアフリカからの留学生が8~10%を占めているのが注目されます。日本人は目下研究者が十数名、家族を入れると256名、キール開闢以来の盛事で「日本人殖民地」などの綽名されています。2人のお医者さんが日独協会支部で日本語を教えています。

さて編輯子の依頼では「勉強以外のことなら何を書いてもよい」との事ですが、真面目な読者のことを考えるとやはり天文の事も書かぬ訳にはゆきません。天文学でキールといえば、いうまでもなくウンゼルト教授の名によって有名で、世界の中年以降の天体物理学者が、よって以て育って来た彼の著書「恒星大気の物理学」は名をあげるのも愚かでしょう。天文教室は正確には「理論物理学教室並びに天文台」となっていますが、この天文台の方は古い観測機械と共に(大きな子午環があった由)

爆撃で既になく、今は「新大学」のかなり古い建物の二階に廊下をはさんで左右に僅かに5つづつの小さい部屋が並んでいるだけです。私もここについて、その輝かしい業績から想像した所とは全く遠い研究所の姿に驚きました。ウンゼルト先生は今年で勤続30年、2月でしたか皆で花を贈ってお祝いました。彼の門下からは幾多の優秀な学者が輩出し、諸方で活躍していることは周知の通り。現在職員はベーム助教授、奥さんのベーム・フィテンゼが講師、トラウニング助教授、リヒター講師、そして目下ウィルソン山で星のスペクトルを撮っているバッシュク氏が近く帰って助手となります。これに應用物理教室からドレーグ氏が電波天文台を切り廻しています。専攻の学生は4、5名で、外国人は今私より一年早く留学、最近準矮星の分光解析を完成された東大の小平氏と私の2人の日本人だけ。ここの研究テーマの中で一言すべきは恒星大気の分光解析(Feinanalyse)でしょう。大将ウンゼルト自ら、そして又トラウニング氏が米国で撮った多数の星のスペクトルを次々と解析して次第に低温度の星に及び、私にいたってF8型主系列の β Virを扱われています。オランダ製のX-1という電子計算機での詳細解析のプログラミングがトラウニング氏を中心として完了し、吸収線の測定さえすれば後は(原理的には)押しボタン作戦で解析が出来ることになりました。

この教室では名前の如く(古典的)理論物理の仕事が半分で、スタッフは天体物理の分野と共に力学、光学、相対論等々の課目を毎学期每一課目づつ講義しています(週2~3時間)。「天体物理学」なる学問が古い意味の天文学と物理学との境界科学であるとの認識を強く打ち出している訳です。従って或いは日本におけるような一貫した天文知識に欠ける所があるかも知れません。それを補う意味か、総論的な所はハンブルクから名誉教授のバウムバッハ氏が週一度来講しています。ここで感心したのは物理の他の分野との連繋が緊密なことです。例えば、実験物理教室を主宰するロホテ・ホルトグレーフェン教授は分光学で知られた人、ウンゼルト先生とは古い親友です。ここの教室では最近殊に天文屋からの要望がつよまったのに反比例して実験屋が興味を示さなくなったスペクトル線の遷移確率の測定といった地味な仕事もやっています。バグ教授の核物理教室とは二学期にわたって共同ゼミナールが開かれました。又理論(天文)、実験、核、及び応用の教室合同の物理学コロキウムが